

西園雜纂

六

特 別

リ5

2467

6



天保三壬辰夏
密山疏

門 475
號 2.467
卷 6

7
多しと云ふ事ありしにせしむる信ありしに
二教様より一書ありしに梅原と云ふ人ありしに
卒より其信ありしに世に信ありしに
一信ありしに世に信ありしに
上は信ありしに世に信ありしに
終は信ありしに世に信ありしに
公信ありしに世に信ありしに
高は信ありしに世に信ありしに
その信ありしに世に信ありしに
其人ありしに世に信ありしに
元は信ありしに世に信ありしに
その信ありしに世に信ありしに
その信ありしに世に信ありしに

今般舟中は信ありしに世に信ありしに
その信ありしに世に信ありしに
その信ありしに世に信ありしに
その信ありしに世に信ありしに
その信ありしに世に信ありしに
その信ありしに世に信ありしに

その信ありしに世に信ありしに

口口口

今般亦氏は般西へ為は成らるるに
弟は利とて其年と作らば其年
年

但今年と稱法は古定り義は西暦十年
一若くは之の死生と表すも
多しは後時成るに示す今も字は極

何程とあるは復下流とありて出づる文

賢なる者もと流る入村と云ふ事皆之疾
多し人の好む事人の好む事人の好む事
人の好む事人の好む事人の好む事
人の好む事人の好む事人の好む事
人の好む事人の好む事人の好む事

長田の流るる事
多し人の好む事人の好む事人の好む事
人の好む事人の好む事人の好む事
人の好む事人の好む事人の好む事

臣用了凡雜思世々方有大利を成れり
わく一毫も損をうけずと云ふ事
人の好む事人の好む事人の好む事

所は多しは此意とある事
情と此意とに信しはしと云ふ事
幸し居る者も得幸然と云ふ事
惟く或る津城切止と云ふ事

此係海草也一

今之海草之類
多由海草之類
今之海草之類
今之海草之類

一

但
其係海草之類

其係海草之類

一

一
其係海草之類

其係海草之類

其係海草之類

其係海草之類

其係海草之類

其係海草之類

其係海草之類

上も母を報ひて行内長百歳
古存を産まじし中へ及ぶ所を
勤世活らして下事

有下向有信く者らも年々相
當方信く者らも相中へ積
一事一上相報するた

一 今も有る信く 相中

一 今も有る信く 相中

一 今も有る信く 相中

一 今も有る信く 相中

世初も信中へ入くくも年々
今も有る信く 相中

今も有る信く 相中

以往く了為極荒

一 再社古長今神為成之每服子心之野
 菜早今人極古之序由植極古信上
 浮勢内外古官之古御神と奉序
 所定社為成之奉祝之奉序と奉
 と奉序とし今明奉之奉初と奉
 記之行事

以之新奉一奉之略之俗之
 今南之古凡之檢回之奉之奉
 志之奉之奉之奉之奉之奉之奉
 物之奉祀之奉之奉之奉之奉
 宣之奉之奉之奉之奉之奉

一 下社古之奉之奉之奉之奉之奉
 田初極古之奉之奉之奉之奉之奉

考るに及ばずし出向者持て幸しく林
收りて相と申すは概々一割に及ぶと
傳初植料も亦の五割に概々一割
供り相と申す初植料の以て事

大積を三三と申す通

一 概を石方持て

三石

一 概を石方持て

三石

一 概を石方持て

三石

一 概を石方持て

三石

一 概を石方持て

三石

古西々年積り或方少の石を信四斗入
七石法也

中身積殖り種資と云ふ事
少積ゆらり事

存一民國之志忠孝節義之志

一情愛之情之誠心之利愛也

前所行極其之而而治方後既推

及言特為國之志也

皇朝中之農氏執事之信之信之

了了之字之万世之存之行也

感這方之義也

亮固施以多之在之也

張

之

歲在丙子十月十日

法教家氣附生

一 先收之於苦沙救之及念偏

火情

即歸之為法也

即悔之成日

數念忽而忘年

即借禮之說以作此之分家之為

事或之其乃去法也

動從之亦之於其得之是近也

一
 出言而為之者，生於人，故其德則不
 以強，故之於何，何之於
 一
 先德者，而後全其德，故君子之德
 長也，故德者，天之長也，故水天象
 本，自於德，而後德，德之於德，德
 德者，天之長也，故德者，天之長也，故
 德者，天之長也，故德者，天之長也，故
 德者，天之長也，故德者，天之長也，故

一
 橫曰，東洋之地方，亦其志也
 於遠志，國之志，死之志也
 是也，故其志也，亦其志也
 勳德之方，道奉之方，亦其志也
 以強，故之於何，何之於
 德者，天之長也，故德者，天之長也，故
 德者，天之長也，故德者，天之長也，故
 德者，天之長也，故德者，天之長也，故
 德者，天之長也，故德者，天之長也，故

一 汝之於我或曰子孫之

一 國事非我之志也法也

一 於事非我之志也法也

一 勸汝之志也列帝海以

一 好有難也

一 是食也汝之對事非我

一 汝之志也汝之志也

一 汝之志也汝之志也

一 別和之竹有海也

一 別和之竹有海也

一 別和之竹有海也

一 別和之竹有海也

一 別和之竹有海也

一 別和之竹有海也

一 別和之竹有海也

一 別和之竹有海也

權と其立の法第と其力も其元
蒙南を有る二州其好の端を有る
是さ尚の似る法を長義とゆらふ
一人成膳也と程と兵馬之威と
借れん人必承省報
法威權法其類跡一其年鏡
無てんる也 抑即美の威等
内地之愛乱也と其待事
即と容易小兵馬と動一其唯

幕府 法其也と其力も其元
皇國 法一其事是も過者
後手 國事 其知一其力と効
其んも其元 其長也と其年
山陽之南之藩也 幕府
法其也と其力も其元
其痛也と其力も其元
其知も其元 法威權之其元
其力も其元 其元

解于其善之所所以如河之觸子
の法法其由之好之衆
之端之人之善之善之善之善之
朝跟法法書之書之書之書之書之
市告市告市告市告市告市告市告
以自身由由由由由由由由由由由
指揮指揮指揮指揮指揮指揮指揮
お成お成お成お成お成お成お成
お成お成お成お成お成お成お成
お成お成お成お成お成お成お成

文朝と奉欽威信と天下
法藩と多矣千載法大辱我
昭々也天下之通一知也
下して法東帰之後と國先元
勅後台命吊後之衆と此一
朝廷と法流と如多しと知也
長也
敵慮道奉と天下の鬼と此
其と小道と尔と此と此と此と此と

横濱借金一軍 於其系付る
不長之雨川 可有之強
朝廷御送御 幸獨山之原
長書既謀及 北有との處
叢林と多作 出たお帝討只
之有者とい 口及び先古板御代
口預うとの 事控候身其
密に國を之 職と執ると命
刺し 幸別 逃を悔ひ 罪を謝し

非常之功を以て 前還と借
勅勅之身 何たる 後不公然
先中再執 口付存 止候中
内奏聞 承出 幕府
朝廷と 清氣 出た 承出
乃白し 幸妙 有力 忘候と
之願 其 罪 計 長 妙

數度出外而重官竟不之成
執事以位出而計是之推升
遂之子也名不歷制之人
依性偏頗之氣
文朝之政府之清和也其為
抑藩府有清截者之孝也其
一文之事也其孝也其孝也
今上御之卯未之福極也其

事矣不信死之計作知者
明年九月卯未流川日潮日
大樹云清澤候付候之確定
氣之每之親之月之卯未
其清澤奉之弟也其孝也
其孝也其孝也其孝也
朝延日由了事之周德
新從清澤中其孝也其孝也

此一事一信帖海關之子事一程碑
天下之其後者而也其所以
涉深矣之干戈也此一日
七子難

宸種之臣者也其知臣者
其子行公名義也
云納上言謝公忠臣
之法律 涉門揚
亦深

口進祭

宸種之臣者也其知臣者
其子行公名義也
云納上言謝公忠臣
之法律 涉門揚
亦深

之文也 也 幸 附 之 情 也
 且 之 也 也 也 也 也 也 也
 亦 難 以 解 之 乎 今 日 幸 附
 之 幸 附 也 也 也 也 也 也
 幸 之 幸 附 也 也 也 也 也
 早 之 幸 附 也 也 也 也 也
 亦 有 之 幸 附 也 也 也 也
 且 之 幸 附 也 也 也 也 也
 白 之 幸 附 也 也 也 也 也

若 之 幸 附 也 也 也 也
 海 之 幸 附 也 也 也 也
 亦 難 以 解 之 乎 今 日 幸 附
 之 幸 附 也 也 也 也 也
 幸 之 幸 附 也 也 也 也 也
 早 之 幸 附 也 也 也 也 也
 亦 有 之 幸 附 也 也 也 也
 且 之 幸 附 也 也 也 也 也
 白 之 幸 附 也 也 也 也 也

水戸侯御自書

7

我亦未續以東御村五所之淺く付るハ
口根心を芳きる事近世之凡そ上の
半下は通を千下の半一昔通を
伴してあること此處に於る心能知あり
先ツ人々其母ある事あるといふながら
天より降りてあつたといふこと能く

其内幸の幸たるは幸あり
公夫人の子生れたる若し人の身あり
幸ありとて下民と生れたるは
人の下とあるは其王昧のるは
よも此國と能く人の上なる
は内とて百姓所人

授音をん空おるは
権ふち者なく是た
家中を借上りて
本神と用ひ食は
ふれ悉く名
用今も予付百姓所人

7
よきも父母に孝道とて是れ君子の
教育のしるしなりと右得てかゝ又か
かりと制し情愛と禁むはるも
今此為とれしおの事かふふ
のれよとて素情愛やまざるに畢
竟上の事下に通せざるをる也

我ふといやんも

天朝より三位の妻の命りて是
將軍よりいふ満より立置れといふ
舞衣菲食と月以年格別たる事
きよいせらま行ふ下より自ら
一七奉り止む情愛とやん人々

と此年一父母子弟の教育もあらん
かと思ふあり前も云ふ通り幸不
幸一として貴族は所達も其も

一と上も云ふより多く人を使ふ所も
日夜心と云ふ一賜く一と下も居るよ
と人々使われて日本力と云ふ事

即ち貴族と云ふ上下とも子方ある事
あるに叶ぬ事故に我亦々日夜心
一と何しもの為ある所一と思ふに
行進に不肖の我亦々病を思ひ力
と云ふ一と勤農いふ一と云ふ一と上も
常々云ふす終ふすかば一と云ふ

するあり 今又我亦の勤しむ物

移の善行法を指す人この分

庭一 家とておまんと 思ふあれを

高しかく日取心とを幸し以て

勤農 一 今日の障子指す

かく孫をたふしたる人 教多し 祭員

村人教多しあり 一村を不睦よく

し 助合やうに 女程の力をかり

楽 一 かる屋お解ると 左指すの世は

指すの玉と 一 物を収納し 指すを

かき 一 表の届るめく

あるわが己の産業と 勤めを博す

心と用は他より来る者たるの物と歎
 せしむるに思ふ悪心起るに即ち
 心と用は他より来る者たるの物と歎
 い云ふから阿彌陀佛と云ふ心と
 されい我亦日來心と云ふ何事
 への事とお人に何事と云ふ亦か

心勞する事と云ふ事と云ふ事
 せしむるに思ふ悪心起るに即ち
 心と用は他より来る者たるの物と歎
 い云ふから阿彌陀佛と云ふ心と
 されい我亦日來心と云ふ何事
 への事とお人に何事と云ふ亦か

元治二乙丑春正月

雜錄

山縣孝諄

七

7

7
而にありて水州市集に居るものと稱すは
ふに何年かして能く一列に並ぶる
能くこと

世ノ二百年

けふと昔の名と同一

深世文句

昔方々のものと昔をわけて言ふ事あるの傍らありて
何となく懐かしうおもはるる物とありて
とるるとおもふ一ありてわづらひし物とありて
何となく懐かしうおもはるる物とありて

川ありて水ありて深なりて
昔方々のものと昔をわけて言ふ事あるの傍らありて
何となく懐かしうおもはるる物とありて
とるるとおもふ一ありてわづらひし物とありて
何となく懐かしうおもはるる物とありて

新橋大隊 兵 別隊

7
所出海役人中後入道一連二一隊
齋堂の湯屋あり萩白り二隊
御参頭、意海子連、山籠の解除が二隊
元生駒と、思海にありふが四隊
先釋方首ととらして、藤上、房、ふ、二隊
法隊、進討と、所、二隊
政府 策略と、大ら、遠
款、益、概、と、堂、八、隊
玉、収、或、年、大、女、乃、隊

副隊

二大夫、早、速、あ、皆、が、と、と、隊
け、屋、の、務、軍、の、如、隊
所、家、老、の、中、一、人、後、の、り、せ、隊
事、の、大、る、遠、て、あ、ま、の、か、隊
齊、兵、の、う、ん、あ、ん、ま、の、り、あ、と、を、以、て、後、に、あ、け、り
軍、の、標、隊
法、隊、の、書

明年秋、京原、更、動、の、後

古事記の巻

御氣をくむに法に忠を教ふ事なるは是
波好はるに後海流にゆき應に敬し
高き 君之と矯先遂に今日にゆき
法縁通討し御座候一決既大夫蘇我
とて 御座候事なるに 千本に御座
御座候事なるに 御座候事なるに
事なるに 此なるに 了及に御座候事なるに
御座候事なるに

君なる顧御由海標新友なるに
守志徳の徳子に完敵工友なるに
先を友者兵衛なるに 信光寺堂敷十人
決戦雄治なるに 大夫之外に 御座候事なるに
御由なるに 寸怒なるに 御座候事なるに
之頃には 御座候事なるに 御座候事なるに
御座候事なるに 御座候事なるに 御座候事なるに
御座候事なるに 御座候事なるに 御座候事なるに

御座候事なるに

御座候事なるに

一廉亦... 向... 公... 後... 矣

也

法深

一... 一... 一...

德...

林...

一... 一...

長...

水... 村...

義...

派...

二...

一... 井...

初...

二
五
中
山

新
川
集
家

身
正
終
誠
以
集
家
八

廣
州
文

梁
元
帝
本

一
河
口
海
軍
山
林
卷

半
通
甲

小
列
為
地

同
里
河

山
海
集
元

一
十
二
百
夜
望
卷
六

山
海
集
卷

每
年
都
有
何
氏
也
村
卷
六

海
波
以
可

東
門
不
空
佛

海
河
大
道

戶
身
了
在
是
法
而
能
在
力
能
救
亦
有
實
上
卷
波
道
通
河
一
條
矣
乃
知
可
之
條
次
子
之
概
乃
是
自
身
人
納
以
之
撰
譯
家
之
自
河
東
大
叔
備
多
矣
之
中

一
中
之
一
日
繪
卷
紙
卷
之
名

高
村
藤
氏

有
斗
于
能

一 虎山王能来不知

一 田原屋造大木藤原

一 内井山深大

一 田原中下

一 福海舟夜

石原殿下初来兵部中源公保重
多江原殿初来大田比病流一汲九折也

七 志也中下官地卜命也

付然

本十六日海波田原屋造大木藤原
田原屋造大木藤原

海原

一 光原田原屋造大木藤原

一 二光原

一 田原屋造大木藤原

一 田原屋造大木藤原

一 天原屋造大木藤原

一 田原屋造大木藤原

一 田原屋造大木藤原

湖心亭

外遊軍門

海濱

外

湖濱

外

外

外

外遊軍門

外

又

一美談我然之天在橋余人之風説

一海濱我人之橋人之風説

紫々赤々

外遊軍門

外

外

外

外

外

外

六月廿二日 啟

六月廿三日 啟

六月廿四日 啟

六月廿五日

六月廿六日

六月廿七日

六月廿八日 啟

六月廿九日 啟

七月一日 啟

七月二日 啟

七月三日 啟

七月四日 啟

七月五日 啟

七月六日 啟

七月七日 啟

七月八日 啟

七月九日 啟

7

卷之三

7

國感激憤勵之折柄後于五十七日色隔不而歸之
通以修出分同年十月十九日之有先年分亥

八月十日子西色後多

齋五逸孝華儀承賦之外詔以自供之取計在任

之改降理を西一七字

勅始末を冊去調右口書面生活柳

天朝下及出馬之幕府并一橋中納公也之免迫

漸因偽亂況之勿備加賀使志米活字也左字

勅始末は書翰未活柳大之也子使者志及知

達至尚也似幕府上元才標支子始之也起也効

之其しより付折角人心憤辱旁至只存之止格

よりしり折しり官極演は活中し候領海は

我艦通航不仕程活生活振昔之はあり名來也

書面をん柳お新皇乃生也河海也之也

十二月廿四日亥船一艘上船分家弟し付赤岩関

諸君を捕定規之如く辨炮を發し在船を河

流に夜多討砲志を面し家弟分又親と為

子炮撃り家上弟も去り豊お取陣在ら失

火子屋有る一也 薩州幕府沙船借用し

及計候存王机中是也柳為薩州

使向市向... 盧國威勅之... 錦之六... 程

敵... 子... 内... 内之... 内之...

内之...

... 三月... 江... 表... 未... 也...

... 天朝... 吉川... 監... 先... 人... 有... 之... 大... 極... 之... 故... 以... 爲... 爲... 用... 之... 着... 五... 十... 天... 幕... 之... 入... 之... 免... 在... 封... 以... 之... 免... 在... 封...

... 天朝... 吉川... 監... 先... 人... 有... 之... 大... 極... 之... 故... 以... 爲... 爲... 用... 之... 着... 五... 十... 天... 幕... 之... 入... 之... 免... 在... 封... 以... 之... 免... 在... 封...

以官之凡書附呈之也 主簿主其分 王經新 為子其戶
付之上多致之在留中道

嗣下直之批出之官易及撥撥之惟大板法指之
矣古報知之何人誠以語之治身父子不存後
上中甲五之示方之行歷之在留中村
朝廷你之及子進其之手能戶付右及果動、宗
先并若謀之者玉內孫向治身直程嚴之付
以之為之付約之及子休之出許之何之在情
所與第一修之此中笑會之何之何之何之
之往之也西之在幕府之也 二府之在幕府之也

先年之弟

皇國一統之

勸之至也其勸之也 後之也 苦心苦力之誠之也其
者其果何之也 惶惶恐恐之也 上之何之也 通身
五之也 先之也 其也 其也 其也 其也 其也 其也
二折人民其果也 止掃操其力也 其也 其也 其也
之也 其也 先也 其也 通身之也 其也 其也 其也
惟之也 其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也
不為其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也 其也

清くはあなたを愛入る女と云ふ

天の心とては歎運匠の心とては天と天の心

物とて人の好む行はるる也と云ふこと

は白くも白くも来たりしや

都庭の心喜弱くも歎けりしや人の誰か泣き

歌をよみ人も泣くも運匠の心とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

志をよみ人も泣くも運匠の心とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

天法とては運匠の心とては位とては

物恩の心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

心とては運匠の心とては位とては

喜江州相連白

了り別業建お中々成出内人 物免もは
壬戌人々す如 船延幕の折束で結中

也多也 白星結と下ふ朱毒氣保命符

少海法号託益 船延と怪侮外舟と

訓書一途 公成神一和唱一ケ之文を託と

うふふふと撞也も首法也 船延と文吉と和

とふふふとふふふ 船延と晦冥一港の舟

物許と表と喜もも海内港に浪と迫る舟外

玉切文と若明し是れ船今日は旅長防はと由事と

願い舟出たり波々おこし舟中揺櫂

皇妹とらむ

朝命と侍者とらむ

此の御事やと成る心一和とらむ事候はり留文と
去題して遂に御事と別置とらむ方今
御事候はり侍候と成る御事候はり侍候
御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

皇妹とらむ 御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

御事候はり侍候と成る御事候はり侍候
御事候はり侍候と成る御事候はり侍候
御事候はり侍候と成る御事候はり侍候
御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

皇妹とらむ

御事候はり侍候

御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

御事候はり侍候と成る御事候はり侍候
御事候はり侍候と成る御事候はり侍候
御事候はり侍候と成る御事候はり侍候
御事候はり侍候と成る御事候はり侍候

凡説

一 岩屋氏の家族肥後無下以城下中條并鶴崎御座
申し致しと云ふに瀧河守事

一 岩屋宗元九一十方新右衛門造達行丹一在之其
海軍に在る事云ふ事

但只長と別川丹と云は佐佐川筋に在り川口にて
船の出入り移り事

一 岩屋氏の敷居河内尾村之室より此後市田橋大坂海
取立りて長と云ふ事之切難し其の死傷人多き事云ふ事
他長証述退し海防事

一 方々在り云ふ事岩屋氏の敷居河内尾村

邪山之嶽下通以少陽山流島四十濟余と云く以装
之流敷よりと云ふ事

一 聖宗の上段いふ方嶽多兵志候と云ふは
以敷之東端候事

他人敷書の中より力候

一 紀別無智人肥江細川侯へ継子傳地を乞ふ一書に
云く

但是に於廢地少近而一廉世友子に少敷と云ふ
何角に此等と云ふ候事下石等思召らば以のめ候
扱以傳者らに違ひ候事此等礼に少傳者細川侯
より於乞ふにめり候事右に和子に傳地乞ふに
云く

此等方家書と云ふは
九の中句聖宗御殿に一様再書と云ふは
此等より申候事

一 諸事而取川口流島事は是處但身後書有又之程
かしと云ふ候事元天長年中今より此等事は
少傳者に以て候事

一 任科 澤山宗少傳者に角に列以て書候事
以常 薩摩地と云ふは以て候事

一 水師宗元少傳者に事此書是方と云ふは
但の事は於廢地少事と云ふ事

但の事は於廢地少事と云ふ事

一 仙居多處... 今... 山... 山... 山...

一 紀別無... 山... 山... 山...

一 紀別... 山... 山...

一 某山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

山

一 山... 山... 山...

山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

一 山... 山... 山...

山... 山... 山...

事を考ふと左へ玉をさすふは程く少仁甚く事入はれ
申上系難仁能く悌を子に上系あり仁は右に信し
以上

カール

後世和名

一 爲事多居 世に思ひ上系は居るに其川信子と云
カール

但そふは我の所方と云ふこと

カール

多居急務方と申すは知れず以別扱へて別

初ッ律按

御所

仰出と申す所は之の意は解り位事都下は下は是事
了令御事

カール

右の御代は古伝を按て申すは之を以て一説

ハ月御字名を 御代

輩下古伝御し而も名角及子宮元宮中は御代
申すは古伝に之を御代と申すは御代と申すは
御代申す御代

主上と申す御代も古伝に之を御代と申すは御代

多全不有... 大... 五...

二千二...

勅... 中...

長... 勅...

勅... 中...

勅...

二千二...

中... 勅...

勅...

中... 勅...

中... 勅...

中... 勅...

中... 勅...

中... 勅...

中... 勅...

中... 勅...

中... 勅...

中... 勅...

勅...



